令和 3 年 12 月 5 日

# 第 84 回医療薬学公開シンポジウム 開催報告書

第 84 回医療薬学公開シンポジウム実行委員長
日本薬科大学 教授・薬学部長　　松田佳和

第 84 回医療薬学公開シンポジウムを 2021 年 11 月 14 日（日）、日本薬科大学をホスト会場として Web 開催致しましたので、報告申し上げます。本シンポジウムは当初現地開催を想定して準備しており ましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、Web 開催と致しました。Web 開催を取り入れたことにより、非常に多くの方に参加登録頂き、当日は現地参加者 14 名、Web 参加者 358 名の計 372 名にご参加いただきました。

シンポジウムは「薬剤師によるがん治療の最前線」をメインテーマとし、特別講演２題、シンポジウム 4 題の構成としました。特別講演Ⅰでは、前埼玉医科大学病院薬剤部長（現カルガモの家薬剤部部長）の岸野亨先生に座長をお願いし、埼玉医科大学国際医療センター薬剤部 教授・薬剤部長の牧野好倫先生に「がん薬物療法における薬剤師の役割～ファーマコメトリクスを活用した薬物治療の最適化への挑戦～」の演題名でご講演を頂きました。数理モデルとシミュレーション技術を用いたファーマコメトリクスのお話に、我々の新しい研究領域としての可能性を感じた方も多いかと思います。

特別講演Ⅱでは、埼玉県立がんセンター薬剤部副技師長の中山季昭先生に座長をお願いし、群馬県立がんセンター薬剤課長の藤田行代志先生に「薬剤師による研究と論文執筆のお作法」の演題名でご講演を頂きました。論文執筆に関して、改めて気づきを得た若い先生方も多いかと思います。

シンポジウムは、城西大学薬学部の大嶋繁教授に座長をお願いし、静岡県立静岡がんセンター薬剤部 多職種レジデント 伊藤和磨先生に「PKPD モデルによるアムルビシンのレジメン評価と治療最適化に向けて」、上尾中央総合病院薬剤部 国吉央城先生に「地域医療に貢献するためのがん薬薬連携の取り組み」、マツモトキヨシ埼玉伊奈店 薬局長 照屋千津子先生に「保険薬局のがん治療への取り組み」、日本薬科大学臨床薬学分野講師 佐古兼一先生に「化学療法による好中球減少と過大腎排泄の関係性を考慮した抗菌薬の治療最適化－薬学連携による取り組みを例に－」について、それぞれ新人薬剤師、病院薬剤師、薬局薬剤師及び大学教員の立場から、それぞれ特徴的な取り組みを紹介頂きました。

今回のシンポジウムは、定員を 500 名としたところ、登録開始から 10 日程度で定員に達してしまいました。一方、登録者の参加率は約 74%であり、結果的には定員を 700 名近くまで増やしても良かったのではと反省しています。登録を含めて、不慣れな点が多々ございましたが、医療薬学会事務局ならびに多くの先生方のご支援、ご協力により、無事にシンポジウムを終えることができました。本シンポジウム開催にあたり、ご支援いただきました医療薬学会をはじめ、ご協力頂きました全ての方に心より感謝申し上げます。